

3月12日(火)

第一希望

聖書朗読 創世記 13:8~18

「アブラムよ。恐れるな。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きい。」
創世記 15:1b

アブラムはエジプトを出た時、すでにとても裕福でした。住む土地を、甥のロトにまず選択させたのは当然だと思えるかもしれませんが。しかし、自分の方が裕福だと、「私は努力したのだから、一番良いものをもらう権利がある。私がしたように、この若い甥っ子にも頑張ってもらおう。」と言いたくなる時もあるでしょう。しかし、アブラムはそうしませんでした。聖書のこの偉大な人物は、素晴らしい物惜しみしない心を見せてくれました。

聖書の中の物語と同じようなことが、今日起こりました。私の友人と彼女の夫は、気に入った家を見つけました。早速申し込んで、不動産屋に行きました。そこには先客がいました。不動産屋は二人にこう言いました。「お二人共、同じ金額を提示されています。ここに紙が二枚あります。一枚は契約書で、もう一枚は白紙です。契約書を選んだ方が、家を買う権利を得ます。」友人はアブラムとロトの話の思い出し、相手の女の人に向かって「お先にどうぞ。」と言いました。

いつも上手くいくわけではありません。しかし、柔和な者が地を受け継ぐように、神様は、ロトが去った後でアブラムにこう言われました。『あなたが見渡しているこの地全部を、永久にあなたとあなたの子孫とに与えよう。』

讚美歌 II 191

祈り 父よ。私たちが期待している結果にかかわらず、どういう状況に置かれても、他の人を優先することができますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

エミリー・Y・レムリー / 編集者

3月13日(水)

祝福となるために召される

聖書朗読 創世記 12:1~5

まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのみかたです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。

ヨハネ 12:24

神様の宣教の物語は、教会からスタートしたものではありません。イエス様のお誕生、死、埋葬、蘇りからでもありません。神様の宣教は創世記12章で始まります。聖書の驚くべき創造の物語は全て良いものでした。人間の罪が神様の完璧な創造を汚すまでは。創世記3章から11章までは、人間が犯す罪により最悪の話になります。でも、神様は人間に対して諦めることなく、アブラムとサライを通して和解の招きを始められ、二人によって全ての国民が祝福されるようにと、彼らを信仰の旅路に召されました。

アブラムが主から頂いた祝福はイエス様がこの世にいらしてから人々にもたらされました。勿論、イエス様は私たちに救いをもたらしてくださいました。しかしながら、神様の召し、すべての国民を祝福するために、ご自分の民を遣わすみわざは、私たちを通して続いています。私たちは十字架の力と聖霊の内在によって、毎日出会う全ての人々を祝福するように、信仰の旅路に召されています。アブラムのように、私たちは罪を犯し失敗しますが、神様は私たちを通して、神様のみわざを続けてくださっています。アブラムがアブラムとなり、国民の父、信仰の模範者になったのは、信仰の旅路の途中でした。私たちが神様の召しに応えるなら、まだこの世に生まれていない世代も、救いによって祝福されるのです。

讚美歌 II 11

祈り お遣わしになる神よ。あなたの召しに応え、私たちが頂いているものを受け取ることができますように。それを喜んであなたを知らない人たちと分かち合うことができますように。他の人への祝福となるために、私たちはあなたに呼ばれているということをしっかり理解できますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

テネシー州 ブレントウッド / アール D・ラベンダー

3月14日(木)

頂上に登る

聖書朗読 創世記 22:8~14

アブラハムは答えた。「イサク。神ご自身が全焼のいけにえの羊を備えてくださるのだ。」こうしてふたりはいっしょに歩き続けた。 創世記 22:8

創世記は聖書の一番初めの書物ですが、旧約聖書の半分にもほど遠い、22章で私たちは旧約聖書の“頂点”に達します。

どういうことかといいますと、ここで神様は、これから神様がどういうことをなさろうとしているか、歴史の一片を見せてくださっています。神様はアブラハムに仰せられました。『「あなたの子、あなたの愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そしてわたしがあなたに示す一つの山の上で、全焼のいけにえとしてイサクをわたしにささげなさい。」』(創世記 22:2)

アブラハムと息子イサクとふたりの若い者がモリヤの山に登る三日間、アブラハムの心は張り裂けんばかりだったことでしょう。山頂に着き、イサクがこう尋ねた瞬間がこの物語のクライマックスです。『「火とたきぎはありますが、全焼のいけにえのための羊は、どこにあるのですか。」』(創世記 22:7) 創世記 20:7で預言者と呼ばれているアブラハムは、歴史上偉大な真実を預言しました。『「わが子よ。神ご自身が全焼のいけにえの羊を備えてくださるのだ。」』(創世記 22:8)

2000年後、『神ご自身が』、罪を取り除く唯一の真の犠牲、『神の小羊』(ヨハネ 1:29)、私たちの救い主イエス様を備えてくださいました。モリヤ山上の出来事によって私たちは、救い主イエス様という歴史上の頂点を垣間見ることができます。何と素晴らしいことでしょう!

讚美歌 257

祈り 聖なる父よ。あなたを崇め、世の罪を取り除く神の小羊を感謝いたします。イ

エス様が私たちのためにしてくださったことに相応しい^{ふさわ}生き方をすることができますように。イエス様によって。アーメン。

カリフォルニア州 ウエストレイク・ビレッジ / ビル・ヘネガー

3月15日(金)

信頼の力

聖書朗読 創世記 39:1~6

それでヨセフは主人にことのほか愛され、主人は彼を側近の者とし、その家を管理させ、彼の全財産をヨセフの手にゆだねた。 創世記 39:4

一万人にインタビューして、リーダーに求めるものは何かというアンケートをしました。全員が「信頼」だと答えました。

ヨセフはエジプトへ連れて行かれ、パロの廷臣で侍従長のポティファルに買い取られました。ポティファルの家でヨセフは彼の信頼を得、全財産の管理を任されるまでになりました。ポティファルが留守であっても、ヨセフは主人に忠実でした。ポティファルの妻がヨセフを誘惑しようとした時でさえも。後にヨセフが監獄に入れられた時も、彼は監獄の長の信頼を得ました。(創世記 39:22~25)

信頼は人間関係で成功するために決して欠くことのできないものです。社会で『最も小さい者たち』(編注:マタイ 25:40)に敬意を払うことで、私たちは信頼を得ることができます。私たちが他の人にどう接するかで、私たちが尊敬されるか信頼されるかが決まるのです。

自分のした約束を守ることで、私たちは人の信頼を得ます。それによって、神様のみこころを成し遂げるために、神様が私たちを通して働いてくださることができます。ちょうど神様がヨセフを通してなさったように。

讚美歌 519

祈り 主よ。人に信頼されるような者にしてください。みこころが天で行われるように地でも行われるようになるためです。イエス様のお名前によって。アーメン。

テネシー州 メンフィス
デイブ・ブランド

3月16日(土)

彼女を一人ぼっちにしない

聖書朗読 出エジプト記 33:12~23

主ご自身があなたの先に進まれる。主があなたとともにおられる。主はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。恐れてはならない。おののいてはならない。」

申命記 31:8

「お母さんに一人暮らしはもう無理です。」との医者の方の言葉を聞いた時、私たちはまさに愕然としました。母の症状が悪化しているのは分かっていたのですが、老人ホームへの入居が差し迫っていると口にする者はいませんでした。私たちは大混乱の中、母の施設を探し、父の将来の計画について考えました。父は、強くて健康で行動的な人で、すでにあることを計画していました。「一緒に老人ホームに入る。母さんを一人ぼっちにすることはできないよ。」と父は言いました。

父はその言葉通りに、67年間連れ添っている妻と一緒に老人ホームに入居しました。父はホームを新しい自宅と呼び、愛する神様にお仕えし続ける場所としたのでした。父が一緒だったので、母に大した混乱もなく施設入居が済みました。

神様がモーセに民を導くように言われた時、モーセも同じように感じたのではないのでしょうか。『もし、あなたご自身がいっしょにおいてにならないなら、私たちをここから上らせないでください。』(編注:出エジプト 35:15)モーセの気持ちがよくわかります。『主はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。』というみことばは、私の人生の土台です。神様が一緒においてになるなら、どこにでも行けます。神様が一緒においてにならないなら、一歩も前に進むことができません。

讚美歌 294

祈り 父よ。あなたがいらっやらないなら、一歩も行かせないでください。あなたのご臨在とお導きとお護りが必要です。私たちによって、あなたのご栄光を

あらわ
顕してください。あなたがいつも私たちを守ってくださることによって、私たちが神様に属する者であると世界に知らしめてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 ラボック / ジル・ミムズ・モウディ

3月17日(日)

神様のご栄光のために務める

聖書朗読 民数記 4:1~20

ケハテ族の会見の天幕での奉仕は、最も聖なるものにかかわることであって次のとおりである。 民数記 4:4

民数記4章では、神様がモーセとアロンに、ケハテ族やゲルシオン族やメラリ族の務めの詳細について何度も繰り返し説明しているように見えます。

神様がそのように詳細について語るのは、神様にとってその務めが重要で意味のあるものだからです。幕屋の最も聖なるものの責任を負う者もいました。神様がイスラエルの民を新しい宿営地へと導くときに幕屋の解体の責任を負う者もいました。どの仕事が一番重要だったのでしょうか。勿論、どの仕事も重要でした。

神様にお仕えするには、たくさん仕事があります。教会堂のトイレ掃除もそうですし、説教することもそうです。ひとりぼっちの人を訪問したり、地域の給食活動の手伝いや、子どもたちの聖書クラスで教えたりすることなど、全て神様のご栄光のためです。ある奉仕が他の奉仕より重要だという事はありません。奉仕によっては、より注目されたり、高く評価されたりするかもしれませんが、神様の御国でのご奉仕は全て神様のご栄光をあらわすものなのです。

讚美歌 536

祈り 親愛なる神様。あなたの御国でのご奉仕できることを感謝いたします!あなたのご栄光のためにすることができるよう。尊いイエス様のお名前によって。アーメン。

オクラホマ州 タレクウア
ユニーS・スティネット